



「先入観、ネガティブ志向を持たずに」「自己分析を」OBOG 懇談会開催

茨城大学人文学部は25日、卒業5年前後のOBOGを招致して、在学生に就職活動に向けた指南を要請するOBOG懇談会を同講義棟で開催した。開催は、今回で3回目。

人文講義棟15番教室で午後1時から始まった第1部のシンポジウムには、所要で急きよ欠席となった1人を除く5人の講師が集まり、2-3年生を中心として約60人が聞き入っていた。午後3時からの分科会では、講師が講義棟2階の部屋に散り、学生が関心に応じて講師を選び、それぞれに部屋に集結、「就活のポイントは」、「内定がなかなか得られない時にどうするか」などの現実的な質問を浴びせていた。分科会は、午後5時には終了した。

冒頭、佐川泰弘学部長が「どの業界を選ぶかなどを確認する場でもある。先輩の話をしっかり聞き、それを見極めてほしい」と挨拶。清山玲教授（労働経済担当）の司会でシンポジウムは始まった。



茨城県庁企画部情報政策課に勤務の岡田沙織さんは、「民間は全滅だったが、第一志望の県庁をはじめとして国家公務員、市役所に合格。デジタルコンテンツの作成にかかわっている」と自己紹介した。常陽銀行長岡支店で渉外担当の田山悦子さんは、「岩間支店での預金広報の業務後に、(案件を取ってくる) 渉外担当をしている。お客さん周りは楽しい」と



説明、1年のフリーター後に入社したカスミの梶間明さんは、「卒業後3年間は、新卒入社扱い。新規事業開発部に属し、小型店の店長を任せられている」とPRした。

総合職で入社し、現在営業を担当

する東日本放送の伊勢智之さんは、「CM 作成や広告をお願いする営業担当で、さまざまな企業とお付き合いさせてもらっている」と語り、専務の政策秘書の経済同友会の森田陽一さんは、「あまり知られていない団体だが、政策提言の作成などで毎日が忙しい」と強調した。

「就活でこれをしておけばよかった」との清山教授の質問には、「業界を絞ってしまい、後悔した。先入観を持たずに幅広く」（岡田さん）、「自己分析をもっとしっかりやるべきだった」（田山さん）、「行動するか、しないかの面がある」（伊勢さん）、「社会に役立つ仕事をしたいと考えて」（森田さん）など声が挙がった。

「上手くいかない場合はどうするか」との会場からの質問には、「自分を追い込まないようにする。ネガティブな思考は持たない」（梶間さん）、「一緒に働きたい企業かをこちらが見てやろうとの気概を持って」（森田さん）などのアドバイスがあった。

就活のポイントについては、「ここに来ているのは意識の高い学生。自分に合う企業を見つけてほしい」（田山さん）、「自分が何をやりたいか、ステイタスではなく自分に正直に」（森田さん）などの声が聞かれた。



### 先輩からのメッセージ

・東日本放送 伊勢さん 先入観を持たずに自分が受けたい企業は全部受けてください。どうせ無理だろうと自分で決めないでください。面接で聞かれるのは、①受ける会社のこと②自分自身のこと—の2つです。あまり身構えずに、聞かれたことに対して素直に答えてください。あとはガッツです。



・茨城県庁 岡田沙織さん 第1志望は、県庁でしたが、市役所や民間企業など本命以外もたくさん受験しました。その経験が、第1志望の合格につながったと感じています。折

角の機会なので、是非、いろいろな業界を除いてみてください。

・カスミ 梶間明さん カスミは積極的に新しい事業や取り組みにチャレンジしています。熱意のある若手にチャンスの場を与えてくれる会社です。皆さんと一緒にこれからの食を支える仕事ができることを楽しみにしています。

・常陽銀行 田山悦子さん 就職活動は、自分を見つめ直す機会でもあると思います。自分の強みや長所を認識してアピールしてください。さまざまな企業の話聞けるのは貴重です。楽しむくらいの気持ちで悔いのないよう就職活動をしてください。

・経済同友会 森田陽一さん 自分が本当にやりたいことは何か。自分はどうありたいのか。既に目標のある人も、そうでない人も、一度、素直な気持ちで考え欲しいと思います。新卒としての就活は貴重な体験になります。楽しみながら活動してください。 (終)